



子どもアドボカシーとチャイルドラインの活動

代表理事 谷山 啓太

今年私たちは、地域の子どもの意見表明等支援事業(子どもアドボカシー)の受託に挑戦しました(結果はダメでした)。挑戦の過程で、アドボカシーについて学び、子どもたちが必要としているものはなにか、私たちがこれまでにしてきたことと、私たちが今立っている場所をあらためて確認する機会になりました。

「アドボカシー」とは、「代弁する」や「擁護する」と訳される言葉で、声が小さい、声が届きにくい子どもたちのマイクになって大人に声を届ける役目です。子どもの権利条約12条(意見表明権)を根拠にしている、児童福祉法の改正により、児童相談所や児童養護施設などに導入が進んでいます。



アドボカシーは子どもを権利の主体としてとらえます。私は普段、子どもの保護者や、子どもに関わる大人と関わる中で、(相当知見があって子どもの側に立っていらっしゃる方でも)

大人は子どもを「教え導く対象」としてとらえているなあ、と

感じる人が多いです。「良かれと思って」「子どもの最善の利益を考えて」あれこれ指導したりするのだと思います。アドボカシーは子どもの意見が自分(大人)の意見と違うとき「こそ」子どもの声を聴きます。大人は何もせず、子どもが話しやすい状態であることが必要なのだと学びました。声を聴かれた子どもは、やがて自分の気持ちに気づき、それを「意見」という形にすることができるとでしょう。その「意見」が大人に届き、受け止められる経験をすることで自己効力感が養われて、自分の人生を生きていくようになるのです。

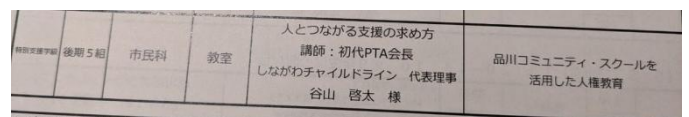
チャイルドラインの「聴き方」は、子どもにアドバイスはせず、どんなことも一緒に考えます。この考えでこれまでもやってきましたし、これからも声を受け止め続けます。子どもには聴かれる権利があり、大人には聴く責任があります。一人でも多くの子どもたちにそのことを伝えたい、地域の大人たちと根っこの思い(子どもを権利の主体としてとらえる)を共有したい。今回の挑戦が、そんな思いを新たに作る機会になりました。

出前授業@豊葉の杜学園(2024/01/25)

品川区立豊葉の杜学園に呼んでいただいて出前授業。5組(特別支援学級)後期(7~9年生)の14人のみなさんと、①歩くワーク、②ミニドラマに意見を出してもらい、子どもたちの意見でシナリオを変更していくワーク、③1対1の話す/聴くワークという50分の内容でした。「話すこと」のテーマで、子どもたちにとって、いつもとちょっと違う授業になったかな?気持ちを話す、人に話すっていうこと。考える機会になっていればいいなあ。

この日は豊葉の杜学園が「小中一貫教育全国シェアミーティング in 品川」の会場になっていて、たくさんの教育

関係者が来校して見学してくださっていました。



継続研修「私たちは子どもの性被害とどう向き合うか(大久保真紀さん)」(2024/01/29)

朝日新聞で子どもへの性暴力について取材し、活動していらっしゃる大久保真紀さんのお話をお聞きました。



性暴力の被害にあった方の心境やその後の生活での困難さなどを知り、正しいケアや知識を周りの人も持つ必要があると感じました。

普段は注目されにくい男児への性暴力についても学び、「男だから」という言葉で片付けられる辛さや言い出しにくさ、苦悩があることを学びました。

性に関わる相談は多くあると思うので様々な性暴力の形、知識を身につけていき、被害にあった方が自責の念を持つ必要は無いということを伝えていきたいと思えます。

(22期 I.A.)

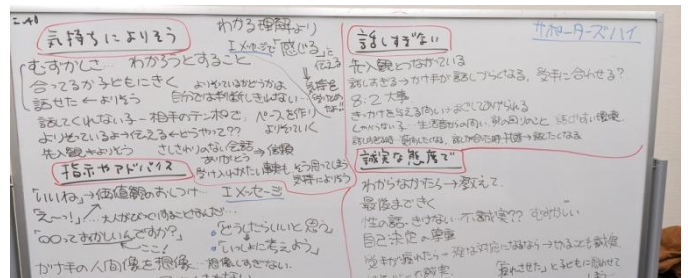
ステップアップ研修(2024/03/09 ほか)

受け手としてのステップアップを期して3/9と3/19に「ステップアップ研修」を行いました。



毎月の継続研修も様々な切り口から実施していますが、年に1回、「聴くこと」「電話の受け方」を掘り下げています。チェックシートで自分の「くせ」に気づき、受け手の「心得」を仲間と深く深く掘り下げました。参加者から、「みんな

な同じように考えて受けていると思っていたのに、みんな違ってビックリ」との声も寄せられました。



来てくれた子どもたちとどのように関わるのか、どのように電話を受けるのか、一人一人があらためて深く考える時間になりました。

22期生デビュー報告

昨年末に養成研修を終えた22期生の皆さんが、フォローアップ研修や見学を経て、春から受け手デビューしています。実際に子どもたちと向き合ってみてどうだったか、感想を聞いてみました。

『受け手デビュー初日は、なかなか繋がらずやっと繋がった電話が難しい内容でした。翌日、身体が重く緊張してたんだなと思ったのと、電話の内容に対して怒りがわいて何日かもやめました。受け手をやめようかなとも思いましたが、誰かのためになりたいとか誰かを救いたいと思って

いたのかもしれないと考え、その考えをやめることにしました。翌月からは、なんだか微笑ましい電話を受けれたりします。受け手の後はぐったりしますが、自身で考えさせられることも多くやって良かったと思えます。』



2024年度年間活動方針

2024年5月18日、しながわチャイルドラインの総会を開催しました。今年度は以下の方針で活動してまいります。

1. 電話、オンラインチャットの常設活動の充実を図ります

- ・ 「子どもの権利条約」の理念を基本として、子どもたちの声を聴きます

- ・ 電話・チャット常設活動の開設日時の拡充のため、支え手を増やします
 - ・ 受け手、支え手の質の向上のため研修を実施します
 - ・ 出前授業を子どもたちにチャイルドラインの意義を伝える大切な機会と考え、積極的に取り組みます
2. 活動の中で受けた子どもの声を社会に発信します
- ・ 私たちが聴いた「子どもの声」を子どもが生きづらい社会を変えるための手段とし、積極的な発信に努めます
3. 行政や子ども関連の地域の団体とネットワークの強化を図ります
- ・ 仲間作りを進め、仲間とともに子どもが大切にされる地域社会の実現を目指します
4. 安定した活動のため支援者を増やします
- ・ 社会への発信、地域ネットワークの構築を通じて私たちの活動の意義を伝え、支援を呼びかけます
5. しなチャイがよりよい組織になるよう見直しを行います
- ・ 地域の子どものためのアドボケイトとしての事業の実施について計画し、準備を行います
 - ・ 「活動に参加してよかった」と思えるようなあたたかい雰囲気を大切にして組織の運営を行います
 - ・ 安定した財政基盤・収支を改善し、活動しやすい事務所・常設場所の検討を行います

宿泊研修 (2024/06/15~16)

参加者は 25 名で 17 名が宿泊しました。

研修の内容は「CL から見える今の子ども達」、「傾聴について」、「食事を終えてからの「お互いを知ろう!—芸大会」、「スクールカウンセラーをやってきて伝えたいこと」の 4 つでした。

子どもが置かれている現状を知ることや、傾聴について考えを深めること、チャイルドラインとして活動するにあたっての疑問・不安などを共有し解決することができました。また、レクリエーションを通しての交流をすることができました。

食事や休憩時間などもチャイルドラインに関する話に限らず世間話や自身の話などを通してコミュニケーションを

図ることができ、振り返りでもあったように 2 日間の全てが研修と思える程濃い時間を過ごすことができました。

(22期 I.A.)



(研修会場からの眺め)

23 期 受け手・サポーター養成研修募集開始

期間 : 10/1~12/10 まで全 11 回、

毎週火曜日 19 時から 21 時

場所 : 立正大学品川キャンパス

参加費 : 社会人 6,000 円、学生 3,000 円

今回のチラシも昨年の養成研修を経てデビューした新しい仲間、立正大学の学生が作ってくれました!

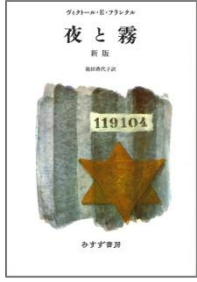
子どもの声に耳を傾ける、私たちの活動に関心を持ってくださる方のご参加をお待ちしています。

<お申し込みは以下の QR コードから>



23 期養成研修の受講者募集が始まっています (締切 9/10)。詳細はしながわチャイルドラインのホームページ、または Facebook をご覧ください。

会員からのおすすめ本・映画



『夜と霧』
(ヴィクトール・E・フランクル)

いまさら感はありませんが、紹介させていただきます。この前はじめて読みました。

心理学者である著者が、アウシュヴィッツ等の強制収容所での体験を書いた名著です。生と死について、深く踏み込んでいく本で

した。苦悩、苦しみついて。苦しみつくす、苦しみを引き受ける、苦しむ勇気とは。そういったことをここまで正面切って考えることってなかったです。

チャイルドラインには「死にたい」「生きることに期待が持てない」という子どもたちが電話やオンラインチャットでたくさん訪れます。「生きることはあなたから何かを期待している」と考えることが出来たら、そんなことを考えさせられた一冊でした。(T.K.)

電話&オンラインチャット実績 (集計期間:2024/1/1~2024/6/30)

◇ 電話

主訴	1月	2月	3月	4月	5月	6月	計
自分	46	47	56	34	55	45	283
性	21	20	25	16	27	24	133
学校	18	17	13	20	17	20	105
家庭	8	6	11	12	10	5	52
その他	5	1	5	4	6	2	23
計	98	91	110	86	115	96	596

◇ オンラインチャット

主訴	1月	2月	3月	4月	5月	6月	計
自分	20	17	15	22	16	23	113
学校	11	9	15	15	7	10	67
家庭	1	9	8	5	3	3	29
性	1	1	3	2	1	1	9
その他			4	1	1	1	7
計	33	36	45	45	28	38	225

ご支援ありがとうございます (集計期間:2024/1/1~2024/6/30)

寄付金・賛助会費・助成金の総額:462,000 円

ご支援いただいた個人:37 名

ご支援いただいた団体:

東京Ⅲゾントクラブ様

たつのこどもクリニック様

しなチャイの運営は正会員の会費、賛助会員さまの会費、寄付金、助成金によって成り立っています。会費、ご寄付の用途は、子どもたちに配布するカード作成費(1枚

0.7 円)、公開講座の開催費などです。

【賛助会員】年会費「1口 2,000 円」から何口でも

銀行名:ゆうちょ銀行

口座名義人:トクヒ)シナガワチャイルドライン

記号:00160-5/番号:664278

※ゆうちょ銀行以外からお振込みいただく場合

支店名:〇一九(ゼロイチキュウ)

預金種別:当座預金/口座番号:0664278



発行: 特定非営利活動法人 しながわチャイルドライン

〒140-0011 東京都品川区東大井 5-23-24 コーポ柴田 203

Tel. / Fax. 03-5462-2868

発行月:2024 年 8 月

ホームページ



Facebook

